

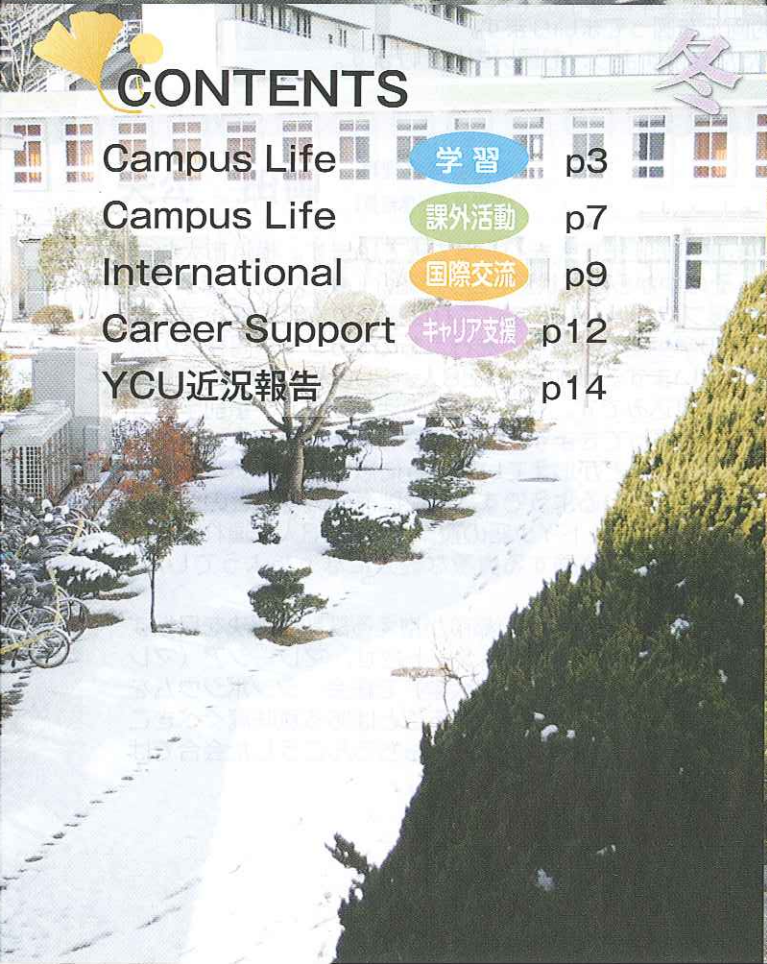
横浜市立大学後援会

NEWS LETTER

2013



春夏



冬秋

CONTENTS

- Campus Life **学習** p3
- Campus Life **課外活動** p7
- International **国際交流** p9
- Career Support **キャリア支援** p12
- YCU近況報告 p14

後援会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 **馬場 彰**



会員の皆様におかれましては、日頃より後援会活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

私どもの後援会は、教育研究活動への補助、課外活動及び福利厚生事業に対する助成、国際交流に対する支援、就職や資格取得への助成、キャンパスの環境改善など、様々に取り組んでおります。在学中の充実したキャンパスライフだけでなく、卒業後のキャリア支援までを見据えて、学生一人ひとりが横浜市立大学で喜びと誇りを持って学習できるよう支援することが後援会の活動目的です。この冊子で取組の一部を紹介しておりますのでご覧いただければ幸いです。

れば幸いです。

さて、八景キャンパスでは、来年2月完成に向けて理学系研究棟の建設工事が順調に進んでいます。加えて、本校舎の耐震整備事業や付属校舎の建て替えも行われるなど、キャンパスの環境改善も大いに進むものと期待しています。このような環境改善の面でも後援会としてできるところから取組を進めてまいりたいと考えています。

今後も後援会の運営にあたりましては、理事・監事の皆様、さらに大学の関係者の皆様のご協力を得ながら後援会活動の更なる充実発展を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学長挨拶

横浜市立大学 学長 **布施 勉**



馬場会長を始め後援会の会員の皆様方には、本学に対して様々なご支援をいただき、心から感謝しております。

さて、人類社会総体における経済的・社会的構造のドラスティックな変質が顕在化しつつある現在、日本人は今後も生き残って、輝かしい未来を再構築することが可能か……が問われています。この様な状況の中で「3.11東日本大震災」が発生しました。そして現在、我が国政府は、大学に社会的存在としての責任の履行を求め、そのための「大学改革」を強く迫っています。

本学は、第一期中期計画において「制度改革」を成し遂げ、現在は第二期中期計画の三年目にあたり、「研究と教育の質的向上」を目指して頑張っています。つまり、高いレベルの研究を前提にした質の高い教育を実施することによって社会の指導者となり得る有為な人材を育成し、経済的・社会的構造の崩壊を乗り越え、「夢が持てる社会」を構築するための確かなプロセスを大学から始めようとしているのです。我が国のすべての大学は、「大志」を持つことを現在求められていると、私は確信しています。

あの震災によって、日本人の価値観が変わり始め、歴史と文化に支えられた「日本人の原点」を意識するようになりました。私は、大学の役割を、そのような原点に立ち戻って再構築する必要があると考えています。明治維新の志士が抱いていた「松下村塾」の思想こそが、今求められるのではないのでしょうか。現代の日本人が自ら持つに至った「根源的意識変革」を勘定に入れずに、従来どおりの教育や研究を漫然と続けて行っても意味がないと思います。これから、どのように「更なる大学改革」を進めるべきか、重くて厳しい課題を背負うことになりました。本学は、じっくりと腰を据えて、「教育と研究」の質的向上を図ってまいります。

今後とも、皆様には、引き続き本学に対するご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

学部長挨拶

後援会常務理事 **岡田 公夫**
(国際総合科学部長)



大学にグローバル人材養成を求める声が増え、大きくなってきています。横浜市大もさまざまな取り組みを行っていますが、その中から進展状況を2つご紹介します。

ひとつは「海外フィールドワーク支援プログラム」です。これは授業単位で教員が学生を連れて海外へ出て、調査や現地の大学の学生との交流などを行うものです。1週間程度の活動ですが、学生には大きな刺激となっています。参加者も128人、206人、282人と順調に増えていて、今年度は300人を超える見込みです。ゼミ単位での活動が主で、事前学習で準備し現地へ行ってさまざまな体験をして戻ってきます。内容面でも進歩が見られ、当初は

視察が中心だったのがこのところ現地の大学生とのワークショップなどが増えているように思います。英語によるプレゼンテーションやディスカッションもだんだんうまくなっているようです。中には海外の学生との活動に向けてふだんから授業を英語で行っているゼミもあります。私も昨年度、ドイツ語の授業の学生13人を連れてウィーンへ行きましたが、参加学生にはヨーロッパの歴史・文化をじかに体験する貴重な機会になったようでした。
(<http://www.yokohama-cu.ac.jp/campuslife/fieldwork.html>)

もうひとつは「アカデミックコンソーシアム」の活動です。これは主にアジアの都市が抱える課題の解決を目指す大学間ネットワークです。2010年に横浜で第1回の総会と国際シンポジウムをスタートさせ、マレーシア（マレーシア科学大学）、タイ（タマサート大学）と続き、今年はフィリピン（フィリピン大学）で総会・シンポジウムを行いました。横浜市大のような決して大きくない大学が音頭を取って活動をしていることはある意味驚くべきことかもしれません。来年はベトナム（ベトナム国家大学）での開催が決まっています。もちろんこうした会合では毎回学生も発表の機会を得て活発に活動しています。そして年々確実に力をつけています。

(<http://www.yokohama-cu.ac.jp/gci/index.html?m=ban>)

Campus Life

学習

横浜市立大学 学部・大学院教育の特色

<国際総合科学部>

国際総合科学部は、世の中の動きや社会のニーズに柔軟に対応するため、平成24年度から4学系12コースに再編されました。教育体制をより明確にし専門性を深める領域横断的な学部構成となっています。

学生は2年次進級時にコース選択を行います。一定の条件を満たすことにより入試区分以外のコースに進級することも可能です。また、平成25年度から学部4年次に大学院科目を早期履修することで博士前期課程を1年間で修了できる「学部・大学院5年修了プログラム」がスタートしました。

1年次の教養ゼミから4年次の卒業論文まで、少人数双方向教育を基本にしたきめ細やかな指導を行い、グローバルな視点を持ちながら創造性と倫理観を備えた人材が育つ学部を目指します。

国際総合科学部



*は平成24年度より新設

<医学部>

医学科では、平成24年度から2つの附属病院と連携した医学教育センターを発足させ、医学教育の質の向上に向けて担任制の充実など様々な取り組みを行っています。

看護学科では、毎年全国トップクラスの国家資格の合格率を実現しています。教員一丸となってきめ細かい学生支援などを行っている成果が表れています。

横浜市、神奈川県地域医療に責任を持つ医療従事者の育成を使命とする大学として、高度な専門知識と技術を兼ね備え、豊かな人間性や倫理観を持つ人材を育成します。

<大学院>

本学では、学部の学びと深く結びつき、より高度な研究や専門性を追求できる大学院を設置しています。平成25年度から、学部理学系3コースでの学習をさらに発展させるため「生命ナノシステム科学研究科」を再編し、「生体超分子システム科学専攻」を母体に医学系教員を加え、発展させた「生命医科学研究科」を設置しました。

学術情報センター

八景キャンパス「学術情報センター（図書館）」では、学生の学習・研究にかかわる様々な情報やサービスを提供しています。約64万冊の図書、1万タイトルを超える雑誌、約1万9千タイトルの電子ジャーナルが利用できます。

授業期間中の平日は22時まで、土日も19時まで開館しており、授業後や休日にも多くの学生が学習・研究をしています。館内には、400席を超える閲覧席のほか、情報探索やレポート作成に利用できるパソコンやグループ学習に活用できるスペースを備え、学生の様々な学習スタイルをサポートしています。

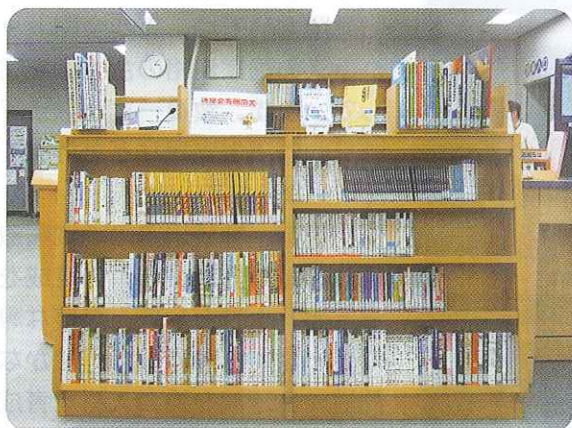
学習サポートの一環として、図書館職員による学習・研究に沿ったアドバイス（レファレンスサービス）のほか、図書館の活用法を身に付けた学生ライブラリストッフによる相談も受け付けています。また、学生ライブラリストッフは新入生向けの図書館案内や、図書館の広報誌・利用案内の作成、企画展示等にも取り組み、学生の視点を取り入れ、図書館をより学生にとって過ごしやすい空間とするための活動を行っています。

また、卒業生利用制度も設けており、卒業後も図書館を利用することができます。

後援会からの図書寄贈

後援会から毎年多くのご支援をいただき、学習・研究環境が一層充実しています。

平成24年度は、昨年度に引き続き毎年ご寄贈いただく教養・学習用図書の他に有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただきました。「学生選書」による寄贈図書は、館内で4月～5月に展示が行われ、学生から好評を得ました。寄贈図書の中でも学生の日常生活に役立つ、学習方法や、留学、就職活動に関する図書は、学生が多く利用するスペースに並べています。『大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる！』や『大学生のためのデザインング・キャリア』など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生の学習・研究に大いに役立っています。



学長賞・学長奨励賞

学生表彰

横浜市立大学では本学の名誉を高め、学内の士気高揚に貢献する成果を上げた学生および団体に対して、「学長賞・学長奨励賞」として表彰を行っています。課外活動をはじめとして、学術、芸術、社会貢献およびスポーツ・文化活動において優れた業績を上げた学生の功労を称えることで学生活動の活性化に貢献しています。

平成24年度は2年ぶりに学長賞受賞者が出ました。日本学術振興会特別研究員SPDへの採用や、日本化学会第92春季年会における学生講演賞の受賞など一連の功績が認められ、生命ナノシステム科学研究科ナノシステム科学専攻 博士後期課程 3年（受賞当時）の浅見祐也さんが見事に受賞されました。

学長奨励賞には個人の部として、国際がん転移学会においてTravel Awardを受賞した佐藤拓輝さん、表面・界面スペクトロスコープ2012においてStudent Prize受賞した青木琢朗さん（ともに生命ナノシ

ステム科学研究科)、2012世界ジュニアオリエンテーリング選手権大会に日本代表として出場した千明瑞希さん、第18回世界大学オリエンテーリング選手権(WUOC)に日本代表として出場した大河内恵美さん(ともに国際総合科学部)が受賞しました。また、団体部門では、第10回学生起業家選手権において奨励賞を受賞した「木原生物学研究所 植物遺伝資源科学部門」、第9回神奈川産学チャレンジプログラムにおいて最優秀賞を受賞した「山藤竜太郎ゼミナール 野菜ましまろ。」、東日本大震災復興に関する一連の活動が認められた「鈴木ゼミ 震災復興支援チーム」、平成23年度秋季ならびに平成24年度春季関東医科リーグ1部に優勝した「医学部 硬式野球部」、第8回全日本大学フットサル大会全国大会に出場を果たした「フットサル部 VERDADE」の5団体が表彰されました。

伊藤雅俊奨学金奨学生・成績優秀者特待生表彰式

本制度は学業・人物ともに優秀な学部生に対し、学業への一層の努力を奨励するとともに、本学学生の学習意欲の向上を期待して設置しています。

今年度は平成25年9月30日(月)、八景キャンパスシーガルホールにおいて、平成25年度伊藤雅俊奨学金奨学生ならびに成績優秀者特待生の表彰式を執り行いました。

また、式典後は後援会の助成により懇親会を開催。学生・教員・保護者が懇親を深める良い機会となりました。



経済支援

経済的理由により修学の継続が困難な学生に対しては、家計基準や学業成績を審査のうえ、経済困窮度の高い学生から順に授業料の減免を行っています。

平成24年度には2つの新たな減免制度を開始し、25年度には家計審査基準の見直しを実施、真に支援の必要な学生が授業料減免を受けられるよう制度の充実を図っています。その成果として減免適格者数もここ数年増加し、予算額も増やして経済支援に対応しています。

また、日本学生支援機構をはじめとする様々な奨学金の案内、手続きのサポートも行っています。

後援会支援 (学習)

- ☆ゼミ活動経費助成
- ☆卒業論文集作成経費助成
- ☆学会参加経費助成
- ★学術情報センター等への図書・雑誌寄贈

その他、学長賞等受賞者への副賞をはじめ特別講義開催経費の助成など

ゼミ合宿

国際マネジメント研究科 1年 スウ ペイニ

私たち赤羽大学院ゼミナールは、大学院2年生4名、1年生4名、研究生1名の合計9名（日本出身の方1名、ベトナム出身の留学生1名、中国出身の留学生7名）の多国籍メンバーが揃った、とても賑やかで大家族のようなゼミナールです。

今回の夏合宿の舞台は、千葉県茂原というところで、海が目の前にあるホテルです。2泊3日で、2年生の先輩が1年生とそれぞれペアを組んで、修士論文を書くためのアンケートを作成する活動をしました。

初日は、午後に着いて、早速研究生から「研究計画書」と2年生アンケートについての発表をしました。発表に対する質問をし、ディスカッションを行いました。

二日目は、本格的にアンケートを作る作業に入りました。2年生の先輩が中心になり、1年生が意見やアドバイス等を提示するという形で、話し合っアンケートを作り、一部完成させたら、先生のところでアドバイスを頂き、戻って修正します。一日中このような作業を何度も繰り返しました。全員の努力で、ようやく最終日までに完成させました。辛さを感じましたが、それより皆で同じ目標を目指して負けずに諦めずに頑張っ、結果を出した後の喜びは言葉にできないという気持ちが良く分かりました。

また、アンケート作成以外では、BBQをやったり、ビーチで花火を上げたり、私たちの中で笑い声が絶えず、楽しい時間を過ごしました。仲間たちとさらに仲良くなり、距離がもっと縮まったように感じます。先生、2年生、1年生、言語、国籍の壁がなく、これは赤羽ゼミならではの事です。ゼミ合宿を通じて、先輩のやり方や考え方を目にし、そして先生のアドバイスも頂き、とても勉強になりました。自分を含めて1年生は修士論文を作成する手がかりをきちんと理解することができたと思います。みんなにとってとても素敵な思い出となった赤羽ゼミ合宿でした。



資格取得

国際総合科学部 人間科学コース3年 馬場 舜也

今回私はTOEICと英検について助成金を支給していただきましたが、実は3年生になるまでこの制度の存在を知りませんでした(笑)。

私は、自分の英語力の向上を目指してTOEICと英検の勉強を進めてきました。資格を取得したのはいずれも2年生の時ですが、制度の存在を知って申請することができました。努力が後援会という組織から報いられることで、資格取得の喜びが一層増したように思います。また、努力が報いられることで勉学に対するモチベーションも上がるでしょう。

他にも様々な資格に対して助成金や報奨金が支給されるので、それぞれの目標に向かって努力するきっかけとして活用してみることを強くお勧めします。

最後になりましたが、私の経験を文章にさせていただき、このような制度によって学生をバックアップしてくださる横浜市立大学後援会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

体育館更衣室のロッカーを更新



平成25年度は教育設備資金特別会計で、八景キャンパス総合体育館の男女更衣室に設置されているロッカーを全て入れ替えました。

体育館更衣室のロッカーは老朽化も激しく、またシリンダー錠方式の為、鍵の紛失のたびにシリンダーの交換を要するなど、使い勝手の悪いものでした。今回後援会の補助で更新したロッカーは、ダイヤル錠式で利用者が任意の番号で施錠できる方式のものです。

体育の授業をはじめ、部活動、市民の施設利用等で多くの方が利用する更衣室の使い勝手がより良くなりました。

Campus Life

課外活動

第63回 浜大祭

平素より私たち浜大祭実行委員会に対する大学関係者の皆様、後援会や進交会・同窓会の皆様、また協賛・後援していただいた企業の皆様、地域の皆様のご理解・ご協力に深く感謝申し上げます。

さて、私たち浜大祭実行委員会は、本学の学園祭である浜大祭をより魅力的なものにし、多くの皆様に来ていただき、楽しんでもらうにはどうすればよいかを念頭に、日々活動に励んでいます。

昨今は、ありとあらゆるところで、団結の大切さ、絆の大切さがクローズアップされています。政治、経済、スポーツ、どれも個人プレーだけではうまくいきません。みんなが一つにならなければ物事は進まない。特に3.11の大震災以降、私たち日本人はそのことを深く認識したのではないのでしょうか。

そこで、今年度私たちが学祭を通じて発信したいのはみんなで一つになって、素晴らしいものを、素晴らしいひとときを創り上げようじゃありませんかということです。実行委員全員で決めた今年のスローガン「YOU CAN UNITE」には、私たちのそのような想いが込められています。みなさんと一緒に最高のひとときを創りたい。そのための準備が私たちにはできています。いつ来るの？今でしょ！11月1日(金)から11月3日(日)の3日間、金沢八景キャンパスでお待ちしております。

第63回浜大祭実行委員会 委員長 神津 雄太



第62回 関東甲信越大学体育大会



平成25年8月16日(金)～8月31日(土)に、関東甲信越地区の国公立大学から約3,500名が参加する「第62回関東甲信越大学体育大会」が開催されました。今年度の大会は本学が主管校を担当し、当番大学である千葉大学、横浜国立大学と共に責任と誇りを持って大会運営に当たりました。また、運営に携わるだけでなく、選手としても日ごろの練習成果が出せるよう大会に参加した221名全員で力を合わせて闘いました。

大会の規模が大きく、参加費や遠方の会場までの交通費を学生だけで負担することは難しいため、後援会からの補助金をこれらに充てさせていただいています。部活動全体に対して毎年援助をして頂いているお陰で円滑な活動ができています。

さらに、今年度本学が主管校として無事に大会を開催、運営することができたのは、大学、後援会からのご支援、ご協力があったことです。心より感謝致します。

来年度は新潟大学が主管校となり、新潟県・長野県を会場として開催される予定です。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

運動部連合会 関甲信担当 穴戸 聖美

クラブ活動

グラウンドホッケー部

私たちグラウンドホッケー部は、八景キャンパス裏の山を越えたところにある第二グラウンドで日々活動を行っています。年に2回、春と秋にある関東学生リーグ戦で上位リーグ昇格を目標に練習を行っています。

グラウンドホッケーは夏季オリンピックの競技種目でありながら、日本での知名度は低く、そのためか、横浜市立大学のグラウンドホッケー部は大学から競技を始めた部員がほとんどです。しかし、日々の弛まぬ努力によって他大学に負けない実力と精神を培っています。その証拠に、ここ数年は創部以来 最高の成績を残しているといっても過言ではありません。昨年は女子部が2部優勝、今年は男子部が3部優勝を果たしています。

男女ともに入替戦で敗れ、惜しくも上位リーグへの昇格を逃しましたが、次のリーグ戦で目標を達成するために、これまで以上の活動を行っていきたく思います。

私たちが恵まれた環境で活動できるのは、後援会の皆様のご支援のおかげです。備品を買っていただいたり、活動のための支援金をいただいたり、感謝の言葉では足りないほどです。皆様のご期待に応えられるように活動して参りますので、今後とも変わらぬご支援を宜しくお願いします。

グラウンドホッケー部 男子主将 星 一輝 女子主将 荒野 愛莉



陸上競技部

私たち陸上競技部は、今年多くの新入部員を迎え、部員総数25人となりました。競技経験者だけでなく、大学から陸上を始めた部員も少なくありません。皆それぞれの目標をたて、日々練習に励んでいます。

今年の関東甲信越大学体育大会陸上競技において、私たち横浜国立大学陸上競技部は主幹校として運営を行いました。大学関係者の方々のご支援、ご協力、並びに部員が一致団結できたおかげで、大会を無事成功させることができました。競技面においても、男子3000m SC5位、男子ハンマー投6位、女子5000m2位など上位入賞を果たしています。関東大会に出場している部員もあり、今後部員全員でレベルアップしていきたいと思っております。

後援会からのご支援のおかげで、現在のような環境で練習に励むことができいております。感謝申し上げます。今後とも私たち陸上競技部をよろしくお願い致します。

陸上競技部 主将 小幡 哲朗



吹奏楽団「奏」

私たち吹奏楽団「奏」は、創部6年目の文化部連合会所属団体です。

部活としての歴史はまだ浅く、部員も20人弱と吹奏楽をする団体としては少なめではありますが、「その年にやりたいことを部員たちの力で実現できる吹奏楽団」をモットーに日々練習しております。

部員のほとんどが中学や高校からの経験者ですが、大学から吹奏楽を始めた部員もあり、アットホームな雰囲気のなか、和気藹々と活動しています。

年間の活動としては毎年10月の定期演奏会のほか、学内のイベントでの演奏、大学近辺の保育園や地域ケアプラザでの訪問演奏など、地域に根ざした演奏活動を行っています。人数が少ない団体ゆえ、楽譜や楽器の購入が困難で活動が限られてしまうこともありますが、昨年度は後援会の備品充実金のおかげで新たに楽器を購入することができました。

また、最近では地域の方から訪問演奏の依頼を受ける機会も増え、活動の幅が広がりつつあります。

大学関係者や後援会の皆さま、地域の方々のご支援に感謝しつつ、今後も活動範囲を広げられるように頑張っていきますのでこれからも何卒よろしくお願いたします。

吹奏楽団「奏」 部長 池田 彩紀

演劇研究部「劇団海星館」

演劇研究部「劇団海星館」はサークル棟にある、文化部有数の広さを誇る部室にて活動しています。公演は大体年に4~5回、稽古は本番前1~2ヶ月前から開始し、皆で舞台を創っています。本番が近づくにつれて、舞台装置や客席を組立てて、小劇場を創っていくのが海星館の特色です。こうした舞台装置の整備にかかる費用を学生だけで負担することは困難であるため、後援会からの補助金を充てさせていただいています。

また、昨年度から横浜市内の5つの大学6つの演劇部間での交流が始まり、今夏には学外で合同公演を開催しました。今後も他大学との交流を深め、互いにスキルアップを測ることのできる関係を築きあげていきたいと思っております。

今年海星館では記念すべき100回公演を迎えました。これほど多くの公演を行うことができたのも大学・後援会関係者の皆様、観に来てくださる皆様のご支援・ご協力あってのことです。今後も演劇という総合芸術を、部員一同力を合わせて創り続け、より多くの皆様に届けていきたいと思っております。

演劇研究部「劇団海星館」 部長 安達 胡介



後援会支援 (課外活動)

- ☆浜大祭や横浜メディカルフェスティバル（医学部大学祭）への開催経費助成
- ☆関東甲信越体育大会・首都大戦・東西戦等大会経費助成
- ☆課外活動団体への助成等

International

国際交流

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、海外での様々な学びや経験の場を提供しています。今年も海外での学びや経験を通じ、一回りも二回りも成長した学生からの体験談をお届けします。なお、平成24年からはディーン大学（豪）への語学研修が、また平成25年度からはカリフォルニア大学ロサンゼルス校（米）の夏期講座や、英国セメスター留学、上海へのインターンシップ派遣（旭化成（株）等）が新たに可能になりました。引き続き機会の拡大に努めてまいります。

学生海外派遣プログラム

	24年度	25年度	プログラム名
語学研修（英語） 4-5 週間	23	19	オックスフォード・ブルックス大学 サマースクール（イギリス）
	20	20 (予定)	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 春期アカデミックスキル研修（アメリカ）
	3	6	*ディーン大学 サマースクール（オーストラリア）
語学研修（中国語） 4 週間	5	未定	上海市内大学語学研修 (中国)
夏期講座 5-6 週間	0	0	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 夏期講座（アメリカ）
	H25 新設	1	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 夏期講座（アメリカ）
長期派遣 1 セメスターまたは 1 アカデミックイヤー	4 (H24夏 出発)	4 (H25夏 出発)	米国セメスター留学プログラム
	(H25 新設)	1 (H25夏 出発)	英国セメスター留学プログラム
	1	2	上海師範大学交換留学（短期留学）(中国)
	3	3	*ウィーン大学交換留学（オーストリア）
	3	1	仁川大学校交換留学（韓国）

*はP.10に体験記の掲載があります。

海外フィールドワーク 支援プログラム

コース等	25年度 (予定)	主な渡航先
共通教養	5	オーストラリア（ケアンズ）
国際文化創造	15	韓国（ソウル）
	11	ドイツ（ベルリン）、ポーランド（クラクフ）
	23	イギリス（ロンドン）
基盤科学	6	台湾（台北）
生命環境	7	*メキシコ（メキシコシティ）
政策経営	19	オーストラリア（シドニー）
	27	韓国（仁川、ソウル、水原）
会計学	39	タイ（プーケット）
経営学	25	ベトナム（ハノイ）
	21	タイ（バンコク）
	19	オーストラリア（シドニー）
グローバル協力	15	マレーシア（クアラルンプール、ペナン島）
	9	中国（上海、松藩、成都）
地域政策	15	スウェーデン（ウプサラ）、ラトビア（リガ）
医学科／看護学科	2	ブラジル（南リオグランデ州）
看護学科	7	ザンビア（ルサカ）

*はP.10に体験記の掲載があります。

(注)上記は前期選考会採択実績（後期選考会にも多数応募があります）

海外インターンシップ

学部2年生以上が、自分の専攻や将来のキャリアと関連した就業体験を海外で行います。

H25参加者

国・都市	参加者	実習先
アメリカ サンディエゴ	1	*Japan Society of San Diego and Tijuana
アメリカ シアトル	1	Foundation for International Understanding Through Students, Seattle(ワシントン大学内国際交流団体)
アメリカ ロサンゼルス	1	Sumitomo Electric USA, Inc.
アメリカ ロサンゼルス	1	Kay Communications, Inc.
アメリカ ロサンゼルス	1	Taiko Enterprises Corp
アメリカ ロサンゼルス	1	Nikkan San
インド プネ	1	Worldwide Infosoft Services Pvt. Ltd
インド プネ	2	Samuchit Enviro Tech Pvt Ltd (農村開発)
インド プネ	1	Fidel Softech Pvt Ltd
オーストラリア ブリスベン	1	Australian Produce Store (空港内免税店)
オーストラリア ブリスベン	1	Soputhern Queensland Tourism (空港内 Info Center)
オーストラリア ブリスベン	1	Brisbane Marriott Hotel
中国 上海	1	旭化成（中国）投資有限公司
中国 上海	1	上海良園コマースコンサルタント株式会社

*はP.11に体験記の掲載があります。

国際ボランティア

長期休業期間に、世界約30カ国、約800にわたるプロジェクトから自分の希望するプロジェクトを選び、参加するボランティアです。世界各国からの参加メンバーと協力して活動することができ、様々な考え方や価値観を共有することができます。このプログラムはTOEFLの日本事務局でもある国際教育交換協議会（CIEE）が提供しています。

H25(夏)派遣国実績：アイスランド、アメリカ、イタリア、インドネシア、エストニア、オーストラリア、カナダ、セルビア、*ドイツ、トルコ、ニュージーランド、フィリピン、フランス、ベトナム、ベルギー、メキシコ、韓国

*はP.11に体験記の掲載があります。

International

学生海外派遣プログラム



ウィーン大学の中庭から

この学科で日本に興味を寄せる学生たちと話し、実際にドイツ語で日本について学んだことも貴重な経験となりました。このように充実した機会を与えてくださり、そして支えてくださった方々に心から感謝しております。この留学で得られた語学力や専門知識、そして沢山のひととの出会いを大切にしながら、今後励んでいきたいと思ひます。

ウィーン大学交換留学体験記

国際文化創造コース 4年 金山 咲恵

私は留学中演劇学科に所属していましたが、ウィーン大学では、日本ではあまりメジャーではない演劇学や音楽学などといった分野に多くの学生が集まり勉強していました。授業の数や図書館の蔵書数も豊富で、何よりウィーンには演劇やコンサートを学生は格安で観られるという素晴らしい土壌があります。そんな環境下で1年間学べたことは、学ぶことの楽しさ、価値を実感させてくれ、また私の将来の目標や方向性を具体的で強固なものとしてくれました。さらにウィーン大学には横浜市立大学と交換留学制度を結んでいる日本学科があり、現地での生活を助けてくれるチューターや学生を紹介していただけで大変助かりました。こ



ホストファミリー宅で

自分自身を試し、見つめ直す機会を頂いたことを、家族やディーキン大学の先生方、横浜市立大学の皆様はじめ、補助金を支給して頂いた後援会の皆様に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

ディーキン大学夏期語学研修体験記

ヨコハマ起業戦略コース 3年 清水 千恵子

オーストラリア中南部に位置するメルボルンは、世界一住みやすい街と言われ、アートに富み、交通の便が良く、自然豊かでフレンドリーな雰囲気漂う魅惑的な街でした。その街の郊外にあるディーキン大学の附属英語学校では、9段階にクラスが分かれており、自分のレベルに合った授業を受講することができました。日本人も多く見られましたが、きめ細やかなスタッフの方の対応、質の高い先生方のおかげで、快適に勉強に集中できる環境が整っていました。特に、エッセイについての授業は丁寧な添削をしていただき、IELTSの試験対策に直結しそうな内容で大変勉強になりました。今回の5週間の研修を通じて、英語を学んだのみならず、コミュニケーションとは単に言葉が通じる、ということではなく、相手の気持ちを汲み取ることでであると気づきました。このように、

海外フィールドワーク支援プログラム

メキシコフィールドワーク体験記

生命環境コース 2年 高木 相佳

8月の初めに、メキシコでの海外フィールドワークに参加しました。今回のフィールドワークでは、メキシコ人はもちろん、大使館やJICAなど、多くのメキシコで働く日本人とお会いすることができました。私は将来海外で働きたい、という思いもあるので彼らの共通点や自分との違いをよく考えていました。彼らはまず明るく、前向きです。何か新しいことをしよう、というチャレンジ精神が旺盛です。「明日を創る」という言葉も聞きました。私はそんな言葉は、初めて聞きました。世界にはすごい人がたくさんいる、自分の未熟さを感じました。

また、自ら行動することは待っているよりも何十倍も得るものがあるということをより強く感じました。例えば「日本人はハングリー精神が足りない」と言われたのですが、正直今までに聞いたこともあるし、薄々感じることもありましたが、しかしこうしてメキシコに行くという「行動」をとることで、言葉の身にしみ方が全然違ってきました。身近なことだとするならば、電話より会って話す、テレビより現場、ということの違いなのではないかと思ひます。行動すること、生身で触れることの大切さをとても感じました。そして自ら学びに行こう、楽しもう、という姿勢も強く感じ、見習っていきたく思ひました。



国際トウモロコシ小麦改良センターにて

海外インターンシップ

実習先：Japan Society of San Diego and Tijuana

国際経営コース 3年 増田 夏菜恵



上司宅でのホームパーティー

理解し、単語の訳の正確性よりもニュアンスを伝えることが重要であり、単なる語彙力だけでなく日米の文化的背景を心得ている必要があると実感しました。5週間の生活においても、同じ先進国であるアメリカと日本の違いについて多くのことを学びました。例えば、アメリカの医療や保健制度は崩壊しており、歯医者や救急車を呼ぶにも多額の費用がかかること。また、毎日、ニュースで「シリア」と聞かない日はなく、アメリカは常に世界を意識しているということなどを改めて認識しました。政治や社会問題についてホストファミリーと互いに話し合うとき、旅行の会話とは違い、知識や教養、自分の考えを持っている必要があると思いました。文化や考え方の違いを肌で感じ、様々な人種の人々が共存する中で、語学力以上に日本人がまず身につけるべきこと、それは積極的に会話に参加し、新しいことを吸収する積極性ではないかと思います。多民族国家であるアメリカであるからこそ得られた学びでした。

インドでのインターンシップ経験、そしてアジア、アフリカ諸国など途上国約20か国の旅行経験を踏まえ、今までとは異なる新しい発見があることを期待し、世界のリーダー的存在である米国での実習に臨みました。実習先の「Japan Society of San Diego and Tijuana」は、日本人やアメリカ人、メキシコ人の人的交流、文化の相互理解、そして友好関係を促進することを目的に設立されたNPO団体で、私が任された仕事は、社員教育関連のイベント準備でした。日本とアメリカの雇用制度の違いについてリサーチし、「日米の雇用の比較を通じて企業と人の関係性を考察する」ことを目的にしたプレゼンテーション資料を作成しました。この仕事を通して、相手に伝えたいことを

国際ボランティア

派遣国：ドイツ

国際総合科学科 1年 鈴木 裕美

ドイツにある自然公園内の子供向けレクリエーションセンターのボランティア活動に参加しました。ドイツ人のキャンプリーダーを筆頭に、スペイン、チリ、カンボジア、グルジア、台湾、日本から集まったメンバーとゲートを綺麗に掃除し、子供たちが喜ぶようカラフルにペンキを塗りました。そこでメンバーとの実習や共同生活を通して、それぞれの国について語り合い、自分の知識や価値観を広めることができました。例えば、グルジアでは、日本のように経済は発展しておらず、貧しい状態でも、将来のことより今を生きることに信念を持っていること。また、チリの教育環境の悪さや日本の警察とはかけ離れた軍隊のような警官の話は衝撃的でした。さらに、家族の話題になると、メンバーの家族に対する愛情が伝わり、家族や友人との繋がりの大切さを実感しました。このように世界中から集まったメンバーとコミュニケーションを取る上で、どのように自分の意思を相手に伝え、相手は自分に何を伝えたいのかを理解することが重要だということを知りました。この経験が本当の意味での国際交流であり異文化理解であったと思います。今後は、語学の勉強や海外の文化について学び、日本のできる異文化交流など幅広く活動していこうと思います。



ボランティア仲間と

後援会支援
(海外研修支援)

- ☆海外フィールドワークプログラム
- ☆学生海外派遣プログラム
- ☆国際ボランティア
- ☆海外インターンシップ
- 各種海外研修参加学生に対する渡航費の助成

Career Support

キャリア支援

「豊かな教養と専門能力を兼ね備え、国内のみならず世界の第一線で活躍できる人材を育成する」ことを目標に掲げ、個々の学生のキャリア・就職支援に積極的に取り組んでいます。

学生は、キャリア・就職に関する相談はもちろん、企業情報、OB・OG情報、就職関連書籍など役立つ情報を得ることができます。また、就職ガイダンス、公務員講座や合同企業説明会など、就職活動支援に関する講座やさまざまなイベントに参加することができます。さらにキャリアアップを図るための資格取得支援制度や単位認定科目である国内・海外インターンシッププログラム、そして1年次から参加できる国際ボランティアプログラムなど、グローバルな視野を身につけるための幅広いキャリア支援を受けることができます。また、平成24年度からは、早期に正しい勤労観・職業観を身につけ、社会人基礎力を養うためのキャリア支援講座を1、2年次生対象に実施します。これにより、学生は入学直後から卒業まで体系的なキャリア支援を受けることができます。

キャリア・就職支援の主な取り組み

キャリア・就職相談

専任のキャリア・コンサルタントを配置し、キャリア形成に関する相談から履歴書やエントリーシートの書き方、模擬面接まで相談に応じています。



就職支援講座・イベント

合同企業セミナーや就職ガイダンス、公務員講座など各種就職支援講座を随時開催しています。

低学年次対象キャリア支援講座

学部1、2年生を対象に、早期に正しい勤労観・職業観を身につけ、社会人基礎力を養うためのキャリア支援講座を実施しています。

インターンシップ

民間企業から官公庁まで幅広い分野で、国内外問わず就業体験する場を提供しています。学生への海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいています。
※2年次以上対象 海外インターンシップについてはP.9参照

国際ボランティア

世界約30カ国800にわたるプロジェクトから、希望するプロジェクトを選び夏休み期間中に2～3週間にわたり参加するボランティアプログラムを提供しています。学年問わず参加可能です。学生の海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいています。
国際ボランティアについてはP.9参照

キャリアサポーター制度



キャリアサポーターとは、在学生の就職支援を行うOB・OGです。学生が直接連絡をとり相談ができ、現在約500名の方に登録いただいています。毎年「キャリアサポーターと学生の集い」を開催し、在校生の就職支援を行っています。開催費用を後援会より助成いただいています。

キャリアメンター制度

就職が内定した学部4年生／修士2年生が自己の経験をもとに、学部3年生／修士1年生に対して相談・指導する制度です。

資格取得支援制度

TOEFL、TOEIC、各種語学検定、簿記等をはじめとした資格を取得した学生に、受講料の半額を助成、さらに一定レベルを超えた学生には報奨金を助成する制度です。後援会より助成いただいています。

書籍・DSソフトの貸出し

キャリア、業界・職種研究等キャリアに関する書籍やビジネス誌、資格対策のDSソフト等を学生に貸出ししています。書籍やソフト購入の一部は後援会より助成いただいています。

キャリア・ネットポータル

本学学生専用のWEBサイトです。イベント予約やOB・OG情報、求人票の閲覧、インターンシップ情報等オンライン上でキャリア支援を行います。

後援会支援 (キャリア支援)

☆資格取得受検料助成

☆キャリアサポーターやキャリアメンター制度等の開催経費助成

支援内容	1年	2年	3年	4年
キャリア	新入生オリエンテーション キャリアデザイン実習 低学年次対象キャリア支援講座 キャリアデザインセミナー キャリア面談	DS・書籍貸出し キャリア・ネットポータル活用	就職・進路相談	進路報告
就職			就職ガイダンス 合同企業セミナー キャリアメンター制度 キャリアサポーターとの集い OB・OG訪問（キャリアサポーター制度）	
資格取得		後援会による資格取得助成制度	公務員講座	
課外活動		国内・海外インターンシップ 国際ボランティア		

卒業生進路

就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得の専門学校へ通うなど、卒業後の進路は様々です。経営科学系や国際教養学系、融合領域など文系の学生は80%以上が就職を希望し、就職内定率は例年90%を超えています。理学系では60%以上の学生が進学し、就職する学生は30%弱にとどまっています。就職先は、製造、金融、情報通信の3業種でほぼ半数を占め、公務員がそれに続いています。こういった業種に限らず、卒業生は様々な業界、職場で高い評価を受けています。また、横浜市役所や横浜銀行など、横浜市内で働くことを希望する学生も多く、地域社会への貢献に力を注いでいます。

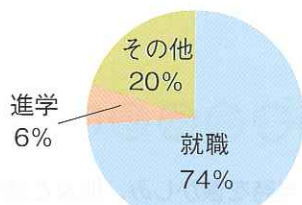
◆国際総合科学部 卒業生進路状況（平成25年5月1日現在）

学科名	人間科学コース			国際文化創造コース			政策経営コース			国際経営コース			基盤科学コース			環境生命コース			ヨコハマ起業戦略コース			合計
就職率	94.4%			94.5%			100.0%			96.9%			100.0%			88.2%			97.3%			
進路	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	
男	22	6	5	14	3	3	48	5	5	110	4	13	7	21	1	6	13	1	23	0	0	310
女	46	0	16	55	2	12	24	2	4	80	1	9	3	10	0	9	12	2	49	2	5	343
男女計	68	6	21	69	5	15	72	7	9	190	5	22	10	31	1	15	25	3	72	2	5	653

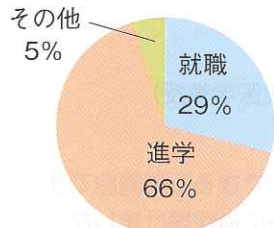
※その他：留学、資格取得など

※就職率：就職者÷就職希望者数

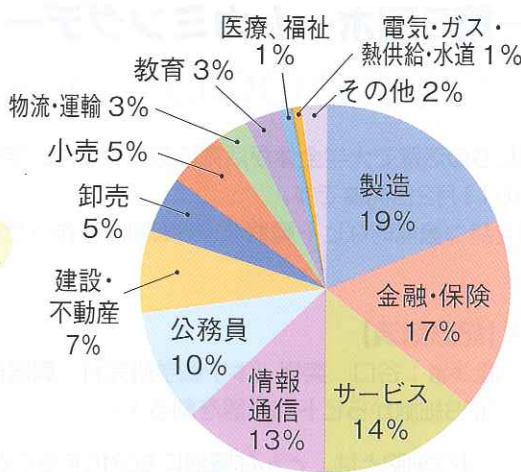
国際教養学系 人間科学コース、国際文化創造コース



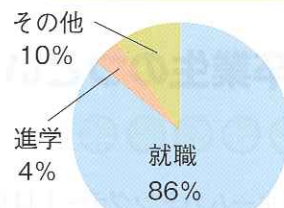
理学系 基盤科学コース、環境生命コース



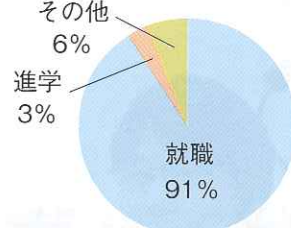
業種別（国際総合科学部）



経営科学系 政策経営コース、国際経営コース



融合領域 ヨコハマ起業戦略コース



主な就職先

横浜市役所、日本発条株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、公立大学法人横浜市立大学、株式会社三井住友銀行、株式会社臨海セミナー、株式会社LIXIL、野村證券株式会社、横浜信用金庫、株式会社エイチ・アイ・エス、株式会社横浜銀行

主な進学先

横浜市立大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、横浜国立大学大学院、首都大学東京大学院

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択される



平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に横浜市立大学の提案事業「環境未来都市構想推進を目的とした地域人材開発・拠点づくり」が採択されました！

この大学COC (Center of Community) 事業(注)は、地域再生・活性化の核となる大学を支援することを目的に、本年度開始された事業で、今年度の募集には全国319件の申請があり、そのうち52件が採択されています。本年度から事業が開始され、最大5,800万円/年が5年間補助されます。

今後、環境未来都市実現のため横浜市が進める様々な取組と連携した人材開発教育、地域貢献活動を推進してまいります。

(注) 大学COC (Center of Community) 事業の詳細はこちら

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/1337841.htm

「三枝博音没後50年記念事業」開催される



三枝博音回顧展



平成25年
10月15日(火)～30日(水)

記念講演
10月22日(火)、25日(金)

※詳細は横浜市立大学文化センター(1階)・いちょうの窓(2階)・学術情報センター(3階)にてご確認ください。

三枝博音回顧展

10月15日(火)～10月30日(水)

展示1
いちょうの窓

展示2
学術情報センター



三枝博音～その足跡をたどる

三枝博音先生没後50年を記念し、先生が活躍された横浜の地をめぐり、先生の人となりを追体験できる企画展を開催いたします。

記念講演

10月22日(火) 14:30～16:00 金沢八景キャンパス

「横浜市立大学のあゆみと三枝博音先生」 髭野 健太郎

10月25日(金) 16:10～17:40 金沢八景キャンパス

「鎌倉アカデミアと三枝博音先生」 野崎 亮

「晩年の三枝博音先生の思い出」 嶋田 二

※詳細は横浜市立大学文化センター(1階)・いちょうの窓(2階)・学術情報センター(3階)にてご確認ください。

本学第4代学長であられた*三枝先生が国鉄鶴見事故の犠牲となり、本年は没後50年となります。先生の偉業と功績をたたえ、「回顧展」「講演会」を広く一般公開として本学で開催するとともに記念誌「三枝博音 大学と思想」を発刊いたしました。

*三枝先生は戦後多くの文化人を輩出した「鎌倉アカデミア」の校長を務められました。「鎌倉アカデミア」の卒業生には、いずみたく(作曲家)、鈴木清順(映画監督)、高松英郎(俳優)、左幸子(俳優)、前田武彦(タレント)、山口瞳(作家)ら多くの著名人がおります。

卒業生のつどい ー第5回ホームカミングデー



「ホームカミングデー」は後輩たちの活躍で大学全体が活気にあふれる中、学生当時を懐かしみ、旧友と語り合う場として今年は「浜大祭」期間中の11月2日開催です。

今年は、世界で初めて血管構造を持つ機能的なヒト臓器をiPS細胞から作った本学の谷口教授に講演していただきます。



【記念講演】

講演者：谷口 英樹 (本学医学研究科 臓器再生医学教授)
『iPS細胞からヒトの臓器を創る！』

iPS細胞とは、どんな臓器にも分化することができる万能細胞です。iPS細胞の発明で、失った臓器を再生する医療に道が開けました。谷口教授のグループは、このiPS細胞を使って、世界で初めてヒトのiPS細胞から肝臓の機能を有する臓器を創ることに成功しました。

平成24年度決算 <H24.04.01~H25.03.31>

【一般会計】

収支計算書 H24年4月1日からH25年3月31日まで (単位:円)

科目	24年度予算額	24年度決算額	増減
【収入の部】			
会費収入(1)	44,085,000	44,085,000	0
会費収入(2)	3,000,000	2,729,550	△270,450
雑収入	50,000	259,291	209,291
当期収入合計(A)	47,135,000	47,073,841	△61,159
繰越収支差額	7,191,872	7,191,872	0
収入合計(B)	54,326,872	54,265,713	△61,159
【支出の部】			0
事業費	49,555,000	42,330,751	△7,224,249
(助成・支援事業)			
学生活動助成費	6,790,000	6,443,267	△346,733
学習助成費	14,100,000	12,505,196	△1,594,804
キャリア支援費	4,035,000	2,414,753	△1,620,247
海外研修支援費	18,130,000	15,944,670	△2,185,330
研究活動支援費	400,000	141,175	△258,825
福利厚生費	3,300,000	2,727,619	△572,381
(広報事業)			
広報誌発行	2,800,000	2,154,071	△645,929
運営費	3,650,000	3,377,901	△272,099
会議費	750,000	648,161	△101,839
通信費	500,000	452,400	△47,600
事務局費	2,400,000	2,277,340	△122,660
当期支出合計(C)	53,205,000	45,708,652	△7,496,348
当期収支差額(A)-(C)	△6,070,000	1,365,189	7,435,189
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,121,872	8,557,061	7,435,189

【教育設備資金特別会計】

収支計算書 H24年4月1日からH25年3月31日まで (単位:円)

科目	24年度予算額	24年度決算額	増減
【収入の部】			
受取利息収入	12,000	4,494	△7,506
教育資金特別会計より	14,428,464	14,428,464	0
当期収入合計(A)	14,440,464	14,432,958	△7,506
繰越収支差額	32,687,614	32,687,614	0
収入合計(B)	47,128,078	47,120,572	△7,506
【支出の部】			
教育環境整備	9,500,000	10,089,345	589,345
当期支出合計(C)	9,500,000	10,089,345	589,345
当期収支差額(A)-(C)	4,940,464	4,343,613	△596,851
次期繰越収支差額(B)-(C)	37,628,078	37,031,227	△596,851

監査報告書

公立大学法人横浜市立大学後援会会則、第8条(7)の規定により、平成24年度事業報告並びに決算書類を監査した。その結果は、事業報告は妥当であり、その会計処理は財産及び収支の状況を正しく表示していると認める。

平成25年5月31日

監事：渥美朋子・市川 靖

平成25年度予算 <H25.04.01~H26.03.31>

【一般会計】

予算書 H25年4月1日からH26年3月31日まで (単位:円)

科目	25年度予算額	24年度実績
【収入の部】		
会費収入(1)	43,310,000	44,085,000
会費収入(2)	2,500,000	2,729,550
雑収入	50,000	259,291
当期収入合計(A)	45,860,000	47,073,841
繰越収支差額	8,557,061	7,191,872
収入合計(B)	54,417,061	54,265,713
【支出の部】		
事業費	49,830,000	42,330,751
(助成・支援事業)		
学生活動助成費	6,710,000	6,443,267
学習助成費	14,240,000	12,505,196
キャリア支援費	2,775,000	2,414,753
海外研修支援費	19,055,000	15,944,670
研究活動支援費	200,000	141,175
福利厚生費	3,850,000	2,727,619
(広報事業)		
広報誌発行	2,800,000	2,154,071
ホームページ(メンテナンス等)	200,000	0
運営費	3,000,000	3,377,901
会議費	500,000	648,161
通信費	100,000	452,400
事務局費	2,400,000	2,277,340
当期支出合計(C)	52,830,000	45,708,652
当期収支差額(A)-(C)	△6,970,000	1,365,189
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,587,061	8,557,061

【教育設備資金特別会計】

予算書 H25年4月1日からH26年3月31日まで (単位:円)

科目	25年度予算額	24年度実績
【収入の部】		
受取利息収入	5,000	4,494
教育資金特別会計より	0	14,428,464
当期収入合計(A)	5,000	14,432,958
繰越収支差額	37,031,227	32,687,614
収入合計(B)	37,036,227	47,120,572
【支出の部】		
教育環境整備	6,000,000	10,089,345
当期支出合計(C)	6,000,000	10,089,345
当期収支差額(A)-(C)	△5,995,000	4,343,613
次期繰越収支差額(B)-(C)	31,036,227	37,031,227



平成25年6月22日 後援会総会が開催されました。

公立大学法人横浜市立大学後援会会則

(名 称)

第1条 本会は公立大学法人横浜市立大学後援会と称する。

(目的及び事業)

第2条 本会は横浜市立大学の教育研究事業および学生生活の支援等を行うことを目的とする。

第3条 本会は第2条に定める目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への助成
- (2) 学生の学業、課外活動および福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員及び役員等)

第4条 本会は次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生(医学部2年次以上及び医学研究科を除く)の保護者または学生本人(以下「1号会員」という)
- (2) 横浜市立大学の卒業生及び教職員並びに退職者で本会の事業を支援する者(以下「2号会員」という)
- (3) 本会の事業を賛助する者(以下「3号会員」という)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 2名
- (3) 常務理事 1名
- (4) 会計理事 1名
- (5) 理 事 30名以内
- (6) 幹 事 5名以内
- (7) 監 事 2名以内
- (8) 顧 問 若干名

(役員を選出)

第6条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、常務理事、会計理事は、理事の互選により選出する。理事、幹事、監事は会員のの中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第7条 役員の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者は前任者の残任期間とする。

第8条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 常務理事は会長、副会長を補佐し、本会の一般業務を掌理する。
- (4) 会計理事は、本会の会計を処理する。
- (5) 理事は、本会の業務運営について審議する。
- (6) 幹事は、本会の一般業務を処理する。
- (7) 監事は、本会の業務および会計を監査する。

第9条 本会は大学との連絡を密にするため顧問を若干名置くことができる。

2. 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。
3. 顧問は、会長の諮問に応じるとともに会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。

第10条 本会の事務を処理するために書記等の職員を置く。

2. 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第11条 本会の会議は、総会および理事会とする。

2. 総会および理事会の議長は、会長をもって充てる。

第12条 総会は、第4条に規定する会員の出席により年1回開催し、事業報告、事業計画、予算、決算、役員の選任及びその他本会の運営に関し必要と認められる事項について審議する。

2. 会長は必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。
3. 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

第13条 理事会は、第5条に掲げる役員をもって構成する。

2. 会長は必要と認めるとき理事会を開催する。

第14条 理事会は、事業計画(案)、予算(案)、決算(案)及び会の運営に必要な事項につき審議する。

第15条 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

2. 理事会の議事は出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会 計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第17条 本会の会員の会費は、次のとおりとする。なお、既納の会費は返還しない。

(1) 1号会員

学部においては学生1人につき、50,000円(但し医学部1年次生については15,000円)

大学院博士前期課程および博士後期課程においては院生1人につき、30,000円(但し博士前期課程より博士後期課程に進学した者にあつては20,000円とする)

(2) 2号会員 年会費3,000円以上(1口1,000円、3口以上)

(3) 3号会員 年会費5,000円以上

2. 1号会員は、学生(院生)の入学時に会費を納めるものとし、2号及び3号の者は毎年、年度内に納めるものとする。
3. 2号会員並びに3号会員が、前項の定める会費を年度内に納めない時は、その資格を失う。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 この会則の改正は、総会で行う。ただし、改正を議決するには、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附則

1. 本会則は、平成17年4月1日から施行する。

2. 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

(施行期日)

1. 本会則は、平成19年6月2日から施行する。

附則

(施行期日)

1. 本会則は、平成22年6月26日から施行する。

事務局より

今年も夏休みに海外で語学研修やフィールドワークをはじめボランティアなどの活動してきた多くの学生の皆さんから、帰国報告をいただきました。また、夏休み中のゼミ合宿、浜大祭実行委員会からも寄稿がありました。これらの活動には皆様の会費で渡航費や活動経費等の経済的支援を行っております。会員の皆様におかれましては、横浜市立大学生の有意義な学生生活支援のため、今後とも変わらぬご協力をいただきたくお願い申し上げます。

発行 公立大学法人横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内
TEL: 045(787)2397 e-mail: kouenkai@yokohama-cu.ac.jp
URL: http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/